令和4年度事業報告書

BUSINESS REPORT

FOREST
Bless to you ...



このパンフレットは、FORESTが運営する障がい者就労支援事業所「branch for pro」が制作しました。

2022年度総括

2022 年度も沢山の方からの応援、ご寄付、ご縁を頂き誠にありがとうございました。

昨年に引き続き世界中で新型コロナウイルスの影響はあったものの、日本ではパンデミック等の影響も緩和され、経済も回復傾向にあったかと思いますが、ロシアがウクライナに対する攻撃を開始したことで、食品や燃料などの物価の上昇がみられ、企業や家計にも大きな影響を及ぼすこととなりました。

こうした影響は就労支援事業、カンボジア孤児院運営支援にも大きく影響し、利用者や孤児院の子どもたちの生活にも大きく直結していきました。

海外事業のカンボジアでは国内通貨のリエル、そして米ドルが基本となっており、フォレストでは孤児院の運営支援に関しては日本円を米ドルに換えて行っています。
そのため、2022 年度からの円安の影響は非常に強く、フォレストやチェイホームにとっても非常に厳しい状況を強いられる形となりました。
しかし、そんな厳しい状況の中でもチェイホームの子どもたち 4 人を新たに社会へ送り出すことができました。
私たちがカンボジア孤児院の運営支援プロジェクトを開始してから丸八年が経ちます。
プロジェクト開始当初は、まだ小さかった子どもたちも大人へと成長し、それぞれ第二の人生へと進んで行くために孤児院から巣立つ子供たちも増えてきました。
中にはカンボジアから離れ、日本で頑張って働いている子もいます。

カンボジアの学校教育は，日本と同じく 基本 6・3・3 となり小学校中学校は義務教育となっていますが、留年制度は小学校 1 年生から適応され、義務教育である中学校への進学率も地方の多くの地域では、経済的理由や学校不足など様々な理由から中等教育（中学校、高等学校）に進めない子どもたちも多いのが現状です。
事実チェイホームでも 18 歳を超えて学校に通い卒業に向けて頑張っている子どもたちがいます。
私たちは子どもたちの成長につれ、チェイホームやその子どもたちの積極的な自立 (自律) を促すにはどうあるべきかという事を深く考えていくようになりました。
2022 年度はこうした子どもたちの成長や自立に伴い、孤児院の子どもたちの人数が減ったこと、そして 2018 年から課題として上がっていたカンボジアの法改正による行政指導等も踏まえ、話し合いの元、孤児院の運営支援の形を一度見直そうということで決定いたしました。

子どもたちのそれぞれの方向性は決まりましたが、引き続き子どもたちの可能性が閉ざされることのないよう、2023 年にはまた新しい形で支援を届けられるよう進めています。

国内事業の活動としては、児童養護施設への物品支援の継続、障がい者自立支援として就労継続支援が主な活動となりました。
物品支援では、引き続き赤い羽根共同募金会様のご協力を頂いており、札幌市内だけではなく道内の児童養護施設の子どもたちにも寄付活動を行う事が出来ました。
毎年少しでもこうした活動を継続し続けることで、1 人でも多くの子どもたちの笑顔に繋がって行けるよう、変わらず進めて参りたいと思います。また、コロナウイルスの収束と共に子どもたちと直接触れ合う事の出来る機会を作れたらと考えています。

そして就労継続支援では、新規企業様やお取引頂いている企業様との関係構築、強化など 2021 年度より交流を深める事の出来た一年となりました。
A 型事業所では 4 名の方が一般就労へと進み全体の通所率も昨年に引き続き 90%以上を維持する事が出来ました。
B 型事業所でも今年度は新たな利用者さんが 9 名増え合計 19 名の方の利用があるなど、昨年よりも人の動きが多い一年となりました。
今年度の就労継続支援の大きな変化としては、これまでは主に WEB チームや業務代行チーム、B 型とそれぞれ各グループでの作業が基本となっておりましたが、今年度は連係を取りながら行う作業が増え、事業所全体に一体感が生まれました。
新しい取り組みにより、コミュニケーションがより活発になったり、新しい業務に取り組んだ事で自信もつき、挑戦する事により前向きになれた利用者さんもいるのではないかと思います。
更には、クライアントの要望にどうしたら応えられるか、どうすればより効率よく業務を行う事が出来るのかなど、一人一人が考え、率先して動いてくれる、頼もしいチームであるという事も感じる事が出来ました。

こうした良い流れが、どんどん磨かれ更に良いチームとなって行けるよう、2023 年度も引き続き縁や想い可能性を大切にし、最善の方法を常に探求しながら進めて参りたいと思います。

小野塚　舞

OVERVIEW

団体概要

世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest（フォレスト）は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、産まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

活動方針

-MISSION- 使命

現在（いま）を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

-VISON- ビジョン

・どんな子どもたちにも平等に夢を
・どんな子どもたちにも未来への希望を
・どんな子どもたちにも無限の可能性を
・どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

-CORE VALUE- 基本理念

・子どもたちの可能性を大切にします
・人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
・自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
・最善の方法を常に探求します

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forest は、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

団体所在地

本部：〒 060-0061
北海道札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-6

支部：〒 8150-042
福岡県福岡市南区若久 6-24-8

T E L 011-272-7716
F A X 011-272-7715

設立日 2013 年 12 月 3 日
法人設立日 2014 年 4 月 8 日
代表理事　小野塚　舞

E - MAIL　info@forest-japan.org
WEB　https://forest-japan.org/

障がい者自立支援推進プロジェクト

障がいのある方への職業訓練・就労のサポートを通じた自立支援

Promotion of invdependence support for people with disabilities 2018~

PROJECT

FOREST
Bless to you ...

経験は「自信」になる。
知識・技術は「チカラ」になる。

▶障害者自立支援に取り組む理由と、私たちの就労支援事業所のご紹介

経済的格差によって生じる貧困の連鎖に苦しんだり、生まれ育つ環境や境遇で可能性を奪われてしまうなど、子供たち同様に苦しい状況に置かれている障がい者の方たちに対しても、Forestができることはないだろうか、という思いから始まった事業です。

Forestが設立した多機能型就労支援事業所「Branch for pro」には、一般就労に近い形で働く「就労継続支援事業所A型」と、柔軟なスケジュールで実務作業の指導や訓練を行う「就労継続支援事業所B型」の部門があります。
同地域の他の事業所に比べ高い専門性、技術力を特徴とし、小さな単純作業から総合的な制作まで企業様より仕事を請け負い、日々業務に取り組んでいます。



Forestが運営する多機能型就労支援事業所

Branch for pro ブランチ フォー プロ

多機能型就労支援事業所
BRANCH FOR PRO

Branch for proは「就労継続支援事業所A型・B型」と「就労移行支援事業所」の部門を持つ、多機能型就労支援事業所です。
A型は事業所に直接雇用され、事業所が請け負った仕事に取り組んでいます。雇用期間の定めはなく、勤務時間により雇用保険等にも加入できるなど、一般の就労に近い形になっています。

B型は雇用契約を結ばない形ではありますが、利用者と相談のうえ通所スケジュールを調整しながら、実務作業の指導やスキルアップのための訓練及びサポートを行っています。



雇用されている障がい者やスタッフそれぞれが得意分野をもち、Webサイト制作・プログラミング（Javascriptなど）・DTP（チラシ・名刺等の作成）・経理業務に関わる業務代行といった専門知識を要する業務を行っています。

クライアントの要望に応えるためにはチーム内での打ち合わせが不可欠で、 技術力だけでなく、コミュニケーション力・発想力・提案力などが求められる非常に高度な業務内容です。
「基本情報技術者試験」「ウェブデザイン技能検定　2級」「日商簿記検定2級/3級」「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）Wordスペシャリスト/Excelスペシャリスト」等の資格保有者も在籍しており、実務に対応できるよう日々積極的に勉強を続けています。

また、2020年1月に導入した本格的なオンデマンド印刷機を使って、 地域の中小企業や個人事業主様を対象にデザインから印刷製造まで含めたトータルサポートを行っています。

札幌圏では、このような専門的な業務が行える就労支援事業所は数少ないため、障がい者本人の自立を助けつつ、 メンバーそれぞれの得意分野を活かしあうことで事業所自体も成長していけるような、他に類のない場を目指しています。

各部門の紹介と2020年度実績

就労継続支援A型「Branch for pro」開所：2018年1月～

A型では、主にWeb・DTP制作および業務代行の二分野で業務を行っています。
Webチームでは、受注したWebページの制作（主にWordPressサイト）や、名刺・チラシ・パンフレット等のDTP制作を、業務代行チームでは企業・個人事業主様の経理業務や一般事務等に関わる業務代行を行っています。

A型・WEBチームより

本年度はクライアント様よりご依頼を頂いた、各種調査を代行する仕事も始まり、同部署内や他部署との連携力が鍛えられる一年でした。
新規分野の仕事も多く、イラストレーションと冊子誌面デザインの総合制作、ウェブサイトのリニューアル業務、動画制作など、昨年度以上にバリエーション豊かに挑戦ができました。
学習面では、スケジュールが厳しい中でも資格合格者が出るなど、技術力向上への切磋琢磨がチーム内の良い習慣となっています。

◆本年度の実績例

・N社　バスルート入力（4月）
・Z社　ワインボトルエチケットデザイン（4月）、クラブ主催 バザーチラシ（9月）
　　少年野球大会冊子（12月）、2022年度版店舗用チラシ（スナック店舗）（11月）
　　スナック店舗 新規WEBサイト（12月）、電気店 新規WEBサイト（2月）
・Y社　オンライン決済システム（5月）
・H社　求人ページ制作（5月）
・L社　新聞折込チラシ（6月）、3枚複写伝票（7月）、新聞折込チラシ（8月）
　　葬儀サービス　新聞折り込みチラシ（3月）
・U社　調査代行（6月～）
・A社　新聞折込チラシ（7月）
・札幌市　NPO法人年報（9月）、返信用封筒印刷（10月）、児童向け地域安全マップ冊子（3月）
・T社　新規店WAEサイト（11月）
・P社　企業パンフレット（12月）
・R社　動画制作 他（2月～）
・情報系専門学校　WEBサイト改修（3月）
・F社　葬儀サービス 新規WEBサイト（3月）



専門学校 Webサイトリニューアル



チラシ・冊子製作

▶A型・業務代行チームより

個人事業主の方からのご依頼をもとに行う経理記帳代行処理（主としてエクセル上での入力作業）を中心に、本年度はクライアント様よりご依頼頂き、各種調査の代行を実施するという新規分野への挑戦も始まりました。
経理記帳代行のお仕事だけではなかなか身に付きにくいパソコンを用いた作業やWebチームとの連携に取り組むことにより、メンバーの技術力やコミュニケーションスキルの向上につながりました。

▶就労継続支援B型「Branch for step」開所：2021年1月～

開所二年目を迎え在籍者数も増加傾向にあるB型は、地域キャラクターのグッズ封入やA型の業務の支援（名刺等の検品や印刷用紙のメンテナンス）といった作業を継続して行っています。また、本年度からA型と同じく調査代行のお仕事にも取り組むようになりました。
通所者の方の希望する分野を中心に資格取得に向けたや学習支援や、A型一般就労へのステップアップが可能となるよう、今後も多様な作業の導入を図っていきます。



[2022年度　合格実績]

[A型　Branch for pro]　WEB
基本情報技術者試験　1名
ウェブデザイン技能検定　3級　1名

[A型　Branch for pro]　業務代行
マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）Excel　1名
マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）Word　1名
マイクロソフト オフィス エキスパート（MOS）Excel　1名
マイクロソフト オフィス エキスパート（MOS）Word　1名
日商簿記検定試験　2級　1名
日商簿記検定試験　3級　3名
TOEIC 635点　1名

[B型　Branch for step]
マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）Excel　2名
宅地建物取引士資格試験　1名

[2022年度　就労実績]

[A型　Branch for pro]　WEB
一般就労　1名

[A型　Branch for pro]　業務代行
一般就労　3名

[B型　Branch for step]
A型事業所就労　1名

令和4年度の振り返りと翌年度に向けて

新型コロナウイルスの影響にも負けず、2022年度はどの部署においても業務にやや忙しさのある年度となりました。
前年度に比べ、新規分野やより難しい案件への挑戦によってチームで取り組む力や個々の技術力向上につながるなど、事業所としても確実に成長を実感しています。
また、Branch全体を横断した業務が始まったことで、これまで以上に各部署の利用者同士での会話や質疑応答の機会が増え、コミュニケーション力の向上に対して良い循環が生み出せました。
年度の後半には東京の企業様との取引の拡大があり、地域を超えての事業など昨年度にはなかった発展もみられました。
さらに、忙しさの中でも資格試験に挑戦する利用者も多く、合格実績も前年度より増加いたしました。
この学習意欲の高さが周囲の利用者にも良い影響を及ぼし、新しい仕事への原動力になっております。

Branch for proは今年度で設立5年目となります。
次年度以降も、WEBチームは新たな分野の仕事への積極的チャレンジ、業務代行チームはより多業種のクライアント様を担当できるよう目指してまいります。
就労継続支援B型ではスキルアップへの取り組みと支援を行いながら、在籍者数の増加を目指して取り組んでまいります。

その他の国内事業のご報告

2022年度物品支援

「北光学園 | 社会福祉法人 北光福祉会」北海道紋別郡遠軽町　ー「オーディオ機器・本」



ONE PIECE FOR PEACE

今年度も新たにご協力頂けた企業さまが増え36,800 ピースを集めることが出来ました。また2021 年 1 月からは就労継続支援で全ての作業を行っており、企業さまから就労支援へ、そして就労支援から児童支援へと繋がる新たな循環支援の輪が生まれています。



ONE PIECE FOR PEACE
この名刺は児童支援に繋がっています。
Support The NPO Forest

MEMBER'S VOICE

Branch for pro 利用者の声

資格取得者にインタビュー！

Q1 Branch に入所してどれくらいになりますか？

Q2 事業所の良い所を教えてください。

Q3 今年度の仕事を通じて感じたことを教えてください。

Q4 資格を取ろうと思ったきっかけや勉強で苦労したこと・大変だったことはありますか？

A 型 Web チーム　K さん

A1 1 年半です。

A2 居心地がよい、仕事内容が楽しい、そして一番良いのは " 肩がこらない " という点です。

A3 業務として、初めてグループ作業での Web ページの制作 2 件に携わることができました。
学んだことを業務にどんどんいかし、反映させられる満足感を味わえました。自己実現に一歩近づけた気がします。

A4 Web に関する基礎知識の勉強方法を探していた時に、同じ Web のメンバーの方に基本情報処理技術者試験を紹介してもらいました。資格取得が目的というよりも、合否関係なく学ぶモチベーションとしてその先に資格があったという感覚です。通信講座のサイトを利用しオンライン学習を主にしましたが、仕組み上質問がしづらいので、大変でした。
点数が取れそうな分野に重きをおいて、完璧を目指さないことにして辛くならないようにしました。

A 型 業務代行チーム　W さん

A1 2 年以上です。

A2 厳しくもあたたかいサポートがあるところ。就職活動の相談では、客観的なアドバイスをもらえるところです。

A3 時折、海外のレシートやドル記載、インボイスの資料などに触れることがあり、それがとてもワクワクしました。
国内の会計処理と海外支出の処理方法は異なる箇所もあり悩むこともありますが、英語に携われるこういった案件に出会えてモチベーションアップにつながりました。

A4 MOS は定期的に行われる面談時に、就職に向けて資格について教えてもらったことがきっかけです。通信講座での学習時にサポート期間がすでに終了していて質問ができず、困りましたがなんとか合格できました。TOEIC は大学時代の勉強を再開させた形です。リスニングの聞き取りに苦手意識をもっていたので、選択を迷って勘に頼ることもありました。

B 型　M さん

A1 2 年以上です。

A2 一時期、コロナ禍で在宅ワークになった時には外出の機会が減り体力の低下を痛感しました。外に出る理由があるというだけで、生活リズムを整えられたり体力の維持ができます。また、簿記の資格をもつスタッフが常駐しているので分からない部分は質問しながら勉強をすすめることができました。

A3 「調査代行」です。予測不可能な状況が発生するため、柔軟に対応する臨機応変さと、忍耐力が鍛えられたかと思います。

A4 簿記 3 級を取得し、今は 2 級の勉強をしています。簿記は全くの未経験からの挑戦でしたので、特に専門用語が多く苦労しました。

海外事業のご報告

OVERSEAS BUSINESS

▶子供の成長記録



2022 年度、フォレストが支援するカンボジアの孤児院、チェイホームでは、新たに 4 人の子供たちを社会へ送り出すことができ、これを書いている現在は在籍 9 人の子供たちに自立支援を行っています。また卒院した 4 人に対しても更なる自立の応援や学習支援などを目的とした支援を実施し、引き続き彼らの成長を見守っています。

皆様の温かいご支援のおかげで卒園した 4 人はもちろん、在籍する 9 人の子どもたちも皆、将来への希望を胸に自立に向けて頑張っています。
私たちは、子どもたちが夢を実現できるよう、今年度も引き続き支援を続けてく予定ではありますが、子供たちの成長を鑑み、2023 年度末をもって運営支援としての支援を終了する予定となっております。

フォレストでの運営支援が終了した後のチェイホームに関しては、話し合いの結果、孤児院としての運用は終了。その後一部の子供は養子として受け入れ引き続き生活を共にし、一部の子供は別の孤児院などに受け入れてもらうことを予定しております。それに伴い今回こちらの場をお借りし、9 名の子どもたちのその後についても以下の項目で併せてご報告させていただきます。

▶カンボジアの新型コロナウィルスの現状（2023年5月20日現在）

子供たちの状況をお伝えする前に、コロナウイルスの影響についても少し触れさせていただきます。

カンボジアでは 2022 年 6 月ごろから新たな感染者はほぼ報告されなくなり、その状況を受けカンボジア保健省は 2022 年 10 月 3 日に新型コロナウイルス感染症対策の入国規制に関する通達を発行し、同日以降は入国時のワクチン接種証明書の提示を不要にすると発表しました。これにより、入国時の水際防疫措置は、事実上全て撤廃されたこととなります。

ただし 2022 年 12 月にはチェイホームの子供が 3 名コロナウイルスに感染し、これを書いている 2023 年 5 月にもまた 3 名の子どもが感染していることもあり、実際には統計には現れない感染者はカンボジア国内で相当数存在することが想像できます。

ちなみにカンボジア国民はこの件に限らず政府の発表を鵜呑みにすることはありませんので、各々で自衛処置を続けています。しかし、何はともあれ生活環境は徐々には平常に戻り、現在では学校や商店なども通常通り営業しており、子供たちの環境は感染拡大前の日常を取り戻しております。

またコロナウイルスに感染したチェイホームの子供たちも、自宅療養で無事に回復してきており、大事には至らないであろうことも併せてご報告させていただきます。





各子供の一年の成長記録

●ナロン（Mr. Sok Narong）男性/ 2002年3月生



小さい時から障害を持ち、半身が上手く動かせないナロンは、年齢的にはチェイホームに在籍する子供たちの中で最年長になりました。

障害があるので自分ひとりではできないことはあるものの、今年も家畜の世話や掃除など積極的に家の仕事をこなし頑張ってくれました。

このように頑張り屋さんのナロンですが、残念ながら仮に成人しても自立して生活することは困難であることが予想されますし、またチェイホーム終了後に他所の孤児院で受け入れてもらうことも打診しましたが、彼の年齢もネックとなり受け入れてくれるところはありませんでした。

そこで孤児院終了後もチェイホームで住み続けてはどうかと本人にも提案をしました。しかし、彼は寺院に入寺したいと言っています。
ちなみにカンボジアでは子供がお寺に入って修行をすることは珍しいことではありません。しかし、寺院での生活は厳しく、障害を持つナロンにとって決して楽な道ではありません。

私たちは今年、5回にわたってナロンと話し合いをしましたが、彼の入寺の意思は固く揺らぐことはありませんでした。
ナロンは明るく前向きな性格で、周りの人をいつも笑顔にさせてくれます。私たちは、彼が入寺後も修行の困難を乗り越え、立派に成長してくれると信じ送り出す予定にしています。

●メタ（Mr. Sok Mata）男性/ 2002年6月生



　ナロンと同じく孤児院で最年長となったメタは、昨年度は名実ともにチェイホームの長男として大活躍をしてくれました。

彼は家畜の世話や畑仕事、家の補修や薪の調達など力仕事のほとんどを率先してこなしてくれているので、肉体的な負担は相当なものと思います。ただそんな環境でも愚痴を言うことなく頑張って働いてくれています。
　年上で血縁者でもあるチンやヒンが孤児院を先に卒園し新しい道を歩み始めたこともあり、メタも早く社会に出て働きたいという思いが強くなっていることが話の端々から伺えるようになりました。

　孤児院終了後は本人の希望もあり、就職をしてヒンと一緒に生活をする予定ですが、人懐っこく頑張り屋のメタなら社会でも上手くやってくれると信じています。

ただその前に、メタにとっては今年は高校卒業試験の年です。
試験に合格できるかどうかは職業選択の幅に大きく影響しますので、まずはそちらにも全力で取り組み、良い結果を持って社会へ旅立ってくれることを期待しています。

●ソピット（SokSophit）女性/ 2003年12月生



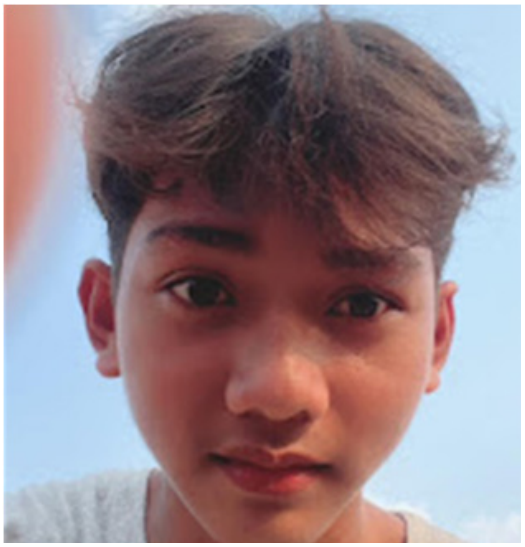
　昨年度は高校卒業試験年だったソピット、残念ながら結果は不合格でした。

　カンボジアで高校卒業試験に不合格だった後の選択肢は 2 つで、ひとつは試験不合格のまま卒業し就職をする、そしてもうひとつは留年し再度卒業試験に臨むという道です。カンボジアでは留年は珍しいことではなく、その後の進路にもネガティブな影響はほぼありません。

　逆に留年してでも卒業試験にパスすることでその後の収入は大きく変わることもあり、テスト終了後に本人と面談し「今年がラストチャンス」と言う条件で彼女は留年する道を選び、今年度も学校に通い勉強を続けています。

　チェイホーム終了後、彼女はポッテビーさんの養子としてそのまま生活することを予定しています。後述しますがポッテビーさんは孤児院終了後も彼女を含めて 3 人の子供を養子として受け入れ養っていく予定なので、ソピットには是非とも高校卒業試験に合格し、良い就職を見つけお姉さんを支えていってくれることを期待しています。

●サムナン（Mr. SokSomnang）男性/ 2008年5月生



中学生になったサムナンは、見た目も内面も精悍で頼もしい青年へと成長を見せてくれています。以前プノンペンの小学校に通っていたときは学校に馴染めないこともありましたが、中学校は楽しく通えているようで、勉強に家事に一生懸命取り組んでくれています。

元々の地頭の良さもあり、成績も優秀。現在は医者になる夢に向かって日々勉強に励んでいます。おかげで成績も上がってきており、特に数学の成績が目覚ましく上昇しています。

成績だけでなく、心優しく正義感の強い性格の彼ですから、医者になったら、きっと患者さんから信頼される良い医者になると期待しています。

孤児院終了後はソピットと同じくポッテビーさんの養子として、チェイホームのある場所でそのまま生活を共にする予定です。

●チャンブルティ（Mr. VongChanrithy）男性/ 2009年1月生



サムナンと同じく、今年から中学生になったチャンブルティ（写真左、右はサムナン）。

身長も顔つきも、随分と大人っぽく成長してきているのがお分かりいただけますでしょうか？
社交性の高いチャンブルティは中学校でも友人が多く、その交友関係も順調に深まっているようです。

また英語力もぐんぐん伸びており、Zoomで会話した際には、問題なく英語でコミュニケーションをとることができるようになりました。カンボジアでは英語ができることは職業選択の幅が大きく広がるので、今後益々の成長を期待しています。
孤児院終了後の彼の進路ですが、彼は元々マナビーさんの実子の為、変わらずマナビーさん宅で一緒に生活する予定です。

●レサー（Mr. SokRaksa）男性/ 2009年7月生（写真左）

●レサット（Mr. SokRaksi）男性/ 2009年8月生（写真右）





仲良しのレサーとレサットは相変わらず元気！と言いたいところですが、今年レサーに衝撃の事実が発覚しました。
病院で検査をしたところ、彼の右目はほとんど見えておらず、その症状は生まれつきのものではないか？とのことでした。
レサーは昔からよくこけたりぶつかったり、おっちょこちょいなところがあるなと思ってはいましたが、そんな持病があったことに気づけなかったのはとてもショックでした。

日本では幼稚園や学校で定期的に各種健康検査があり、早期発見することで対策できることもあると思いますが、カンボジアではそうはいきません。
もちろん今迄問題なく生活してきたわけですから、持病が見つかったからといって今と比べて生活が不便になるわけではありません。
また医者の診断によると右目に続いて左目にも進行するようなことはないとのことなので、今迄以上に事故などに気を付けてもらいつつも、変わらず生活を続けてもらう予定です。

チェイホーム終了後の2人は、残念ながら関係者で引き取ることは叶わず、他所の孤児院に2人一緒に引き受けていただくことになりました。次の孤児院は同じ州にあるのですが、学校は転校となりますので2人は新学期に合わせて10月か11月には新しい孤児院に移動することになります。

正直寂しい気持ちもありますが、幸いにも引き受けていただける孤児院は以前から交流のある孤児院で、場所も近いことからいつでも2人の様子を見に行けるのに加え、お正月とお盆の年2回は帰省として帰ってくる約束となっています。またレサーの目の疾病についても報告をしたところ、それも踏まえて改めて引き受けを快諾していただき、そちらの孤児院でもしっかりとケアをしていただけるとのことでした。

今回2人にとって最適な引受先を見つけることができた、とは思っていますが、それでも多感な子供にとってこの時期に環境が変わることは大きな出来事だと思います。しかし2人にはその環境の変化をプラスに変えて、たくましく、今のまま真っ直ぐ成長してくれることを切に期待しながら、今後も見守っていきたいと思います。

OVERSEAS

●カニタ（Ms. SokKonitha）女性/ 2012年2月生



チェイホーム一番の才女、カニタは相変わらず成績優秀で、学校でも常にトップクラスの成績を持って帰ってきてくれます。家に帰ってきてからも宿題や勉強を率先して行なっており、勉強を楽しんで取り組んでいる姿は頼もしい限りです。

反面お手伝いには少し消極的で、片付けや掃除など言われなくてはできないこ
とも多いのが課題ではありますが、そこでも日本の同世代の子供に比べれば十分にお手伝いをしてくれているとは思っています。

チェイホーム終了後は、ポッテビーさんが彼女を養子として受け入れ、ソピット、サムナンと一緒にお姉さんと暮らす予定です。昨年度は少し情緒が安定していないかもと心配したこともありましたが、みんなで暮らせることもあってか、現在は心身共に安定して元気に過ごしています。

●サンアン（Mr. VongSothearith）男性/ 2014年7月生



ここ2~3年、見るたびに大きく成長してきているサンアンは現在44kg！日本人の8歳の平均体重は30kg前後ですので、かなり大きく育っています。

好き嫌いなく何でも食べる姿はたくましくもありますが、カンボジアでもこのサイズは「肥満」に入るので、最近病院でも指導を受けたらしいです。少し運動量を増やすなどしなくてはいけませんね。

サンアンは兄のチャンブルティと同じくマナビーさんの実子ですので、孤児院が終了後も引き続きマナビー家で暮らします。

●チン（Ms. Peab Chhing）女性 / 1999年3月生



2021年から日本語と日本式の介護の勉強を始めたチンは、技能実習生として日本で働くことを夢見ながら日々勉強を続けています。

昨年度は技能実習生として日本に送り出しをしてもらう条件でもある日本語検定に臨みましたが…、結果は惜しくも不合格！
しかも5点差という僅差での不合格だったとのことで悔しい限りです。

しかしその後も一生懸命に勉強を続けているので、チンが日本に来る日もそう遠くはないはず！です。近い将来日本でチンに会える日を楽しみにしながら、今は陰ながら応援しています。

孤児院を卒院後の子供たちの近況

●チン（Ms. Peab Chhing）女性 / 1999年3月生



2021 年から日本語と日本式の介護の勉強を始めたチンは、技能実習生として日本で働くことを夢見ながら日々勉強を続けています。

昨年度は技能実習生として日本に送り出しをしてもらう条件でもある日本語検定に臨みましたが…、結果は惜しくも不合格！
しかも 5 点差という僅差での不合格だったとのことで悔しい限りです。

しかしその後も一生懸命に勉強を続けているので、チンが日本に来る日もそう遠くはないはず！です。近い将来日本でチンに会える日を楽しみにしながら、今は陰ながら応援しています。

●ソチータ（Ms.SokSocheata）女性 / 1999年9月生



チンと同じタイミングで日本語を学び始めたソチータですが、残念ながらその道を断念。今はチェイホームで寝泊まりしながら近くにある工場で働いています。

2023年のカンボジアの最低賃金は200ドル/月ですが、彼女は現在250ドル近く給料を得ているとのことなので、彼女の真面目な性格が評価され、頑張って働いていることが伺えて嬉しい限りです。

現在はチェイホームで寝泊まりをするソチータですが、孤児院終了後はそのままポッテビーさん達と一緒に暮らすも自分で家を借りて独立するもよし、いずれにしても自分でより良い人生を選択してもらえることを期待しています。

●ヒン（Mr.PeabLeheang）男性/ 2000年1月生



高校を卒業し整備の専門学校を経て、2021年から社会人として働き始めたヒンですが、その後も変わらず頑張って働き、しっかり自立した生活を送ってくれています。

卒園後もチェイホームに頻繁に顔を出してくれ、稼いだお金の一部を持ってきてくれるなどお兄さんらしい姿を見せてくれるのも嬉しい限りです。

孤児院としてのチェイホームは終了しますが、これからも子供たちの良き兄として立派な姿を見せてくれることを期待しています。

●チョモラウン（Mr. SokChomreun）男性/ 2000年4月生



ヒンと同じく整備の専門学校を卒業したチョモラウンですが、残念ながら持病を持つ足腰を中心とした半身の状態がすぐれず、健康状態を理由に就職先が見つからない日々が続いています。

　そんな状態にもめげず彼が始めたのは、彼の特技の釣りの知識と経験を活かし日本から中古の釣竿を仕入れ、それを修理して販売するビジネスです。

仕入れも販売もネットを駆使し、不定期ではあるものの収入を得ることに成功。今は小さな一歩ですが、昔から持病にも愚痴らず粘り強く努力するチョモラウンらしい素晴らしい成果ですよね！
　また釣具だけでは乾季には収入に繋がりにくいこともあり、今は専門学校で学んだ車の修理技術も活かして仕事の幅を広げたいと模索しているようで、頼もしい限りです。

　ちなみに現在は自立できる収入を得られていないので、マナビーさんの家族と一緒にプノンペンで暮らしており、孤児院終了後も変わらず同居を続けてもらう予定です。

　また持病の足腰の状況は、新しく飲み始めた薬のおかげもあり昨年度よりは状況が落ち着いているらしく、薬の服用頻度も週に1回（つまり週に1回くらいは痛みが強い時がある）程度に抑えられているとのことです。
　ただ薬代が高額なこともあり、昨年度は薬代のためにチェイホームに残っていた牛を全頭処分してそれを賄った経緯があります。
このまま持病が落ち着いた状態が続くことを期待しますが、今後も状態は一進一退することが予想されますので、チョモラウンにはしっかりとビジネスを進め、収入を安定させてくれることを期待しています。

その他の昨年度からのトピックス







男手は減ってしまったチェイホームですが、昨年度もみんなで協力して田んぼを耕し、お米作りに励みました！

OVERSEAS






掃除も料理も買い出しも！みんなで協力するのがチェイホーム流。





チョモラウンの薬代を捻出するために、売却前の牛と記念撮影！
困った時はお互い様。みんなで助け合い過ごすのがチェイホームの良いところ。





舗装工事が行われていたチェイホームの前の道もすっかり綺麗に変身！






みんなで選挙の投票。子供達もすっかり大人になりました。

昨年度の振り返りと今年度の取り組み

昨年度は、コロナウイルスの制限が徐々に解かれ、社会も子どもたちも日常生活を取り戻しつつある年となりました。孤児院においても、子どもたちが学校に通ったり、友達と遊んだり、様々な活動に参加したりする機会が増えました。





一方で、昨年は困難な年でもありました。
子どもたちのコロナウイルス感染では、共同生活する孤児院の運営スタイルから院内感染を防ぐのは難しく、特に小さな子供のケアには苦労がありました。

また 2021 年までにフォレスト以外からの寄付金や支援物資がなくなってしまっていたので、孤児院運営は資金面でも非常に厳しい状況に直面しました。

しかしそのような状況の中でも、継続的にご寄付をいただいた方々、ＳＮＳなどを通じて応援の声を届けてくださった方々には本当に助けられました。
昨年度も継続して孤児院運営ができたこと、また新たに 4 名の子どもたちが社会に巣立つことができたことは、皆様のご支援のおかげです。
子どもたちが昨年度も安心して生活を送れたこと、改めてお礼申し上げます。

今年度は、2023 年度末にフォレストの運営支援が終了し、それに伴い孤児院を閉院することとなりました。子どもたちの中には、養子縁組でこれからも生活を共にする子もいますが、別の孤児院や寺院に行く子もいます。いずれの道に進むにしても環境が大きく変わる子どもたちにとって、精神的なケアが重要となります。



今年度は、子どもたちとの会話をより一層大切にし、彼らの精神的なケアを重点課題とし、活動させていただく予定です。

最後に、これまでご支援をいただいた方々に改めて感謝申し上げると共に、今年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます。